

# 株主の皆様へ

(ご注意)本報告書は、2017年11月21日時点の事実関係に基づき記載しております。その後の状況の変化などについては反映されておられませんのでご了承ください。

株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第87期(2017年度)の中間報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

この度は、当社製自動車の完成検査における不適切な事案につきまして、お客様・株主様をはじめ、多くの関係者の皆様に対し、多大なご不安とご心配をお掛けいたしましたこと、改めてお詫び申し上げます。

国土交通省平成29年9月29日付文書「日産自動車の完成検査の不正事案を受けた確認の実施について」に基づき社内調査を行った結果、当社において、完成検査業務を実施するにあたり、不適切な事案があることを確認し、10月30日に国土交通省へ報告いたしました。

今後につきましては、国土交通省平成29年10月30日付文書「型式指定に関する業務等の改善について」に基づき、不適切な完成検査の過去からの運用状況等、事実関係の詳細を調査し再発防止策を検討してまいります。なお、既に販売・登録された当社製自動車についての市場措置につきましては、11月より順次対応させていただいております。

さて、2017年度上期の業績につきましては、自動車連結売上台数が53.1万台と6期連続で過去最高を記録する一方で、エアバッグ関連費用の特別損失計上により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年に対し減益となりました。

2017年度通期の自動車連結売上台数につきましては、6期連続で過去最高となる見通しであるものの、米国ならびに中国市場の競争激化などによる足元の販売状況に鑑み、106.8万台(前年比+0.3%、前回計画比-3.4%)に修正いたしました。2017年度通期の業績計画につきましては、為替レート変動による影

響などがあるものの、計画台数の修正を織り込み、売上高3兆3,800億円、営業利益3,800億円、経常利益3,820億円、親会社株主に帰属する当期純利益2,070億円にそれぞれ修正いたしました。

株主の皆様への還元政策につきましては、毎期の業績、投資計画、経営環境を勘案しながら、継続的な配当を基本としつつ、業績連動の考え方を取り入れております。連結配当性向につきましては、30%~50%を基本とし、諸状況を勘案のうえ決定いたします。今回の中間配当につきましては、1株当たりの配当を72円といたしました。また、期末の配当予想につきましても、中間配当と同じく72円といたします。これにより、1株当たりの年間配当金は、昨年度実績と同様の144円となる予定でございます。今回の業績見通しでは連結配当性向は50%を若干超えてまいります。エアバッグ関連費用の特別損失計上などの諸状況を勘案の結果、減配することなく、株主の皆様への安定した配当を継続したいとの考えでございます。

この度の完成検査における不適切事案を重く受け止め、深く反省し、お客様からのSUBARUに対する信頼を真に取り戻すべく、グループ一丸となって努力してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2017年12月

代表取締役社長

吉永泰之